

知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイの 魅力を伝え、向上させる活動に取り組む

知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイルート運営代表者会議

1 世界中の旅行者を癒す、最果ての自然と美食の絶景海道

当ルートは釧路湿原国立公園細岡展望台を基点に道道123号を通り、根室納沙布岬を經由、国道243号、355号を抜け世界自然遺産知床知床峠を終点とする、世界に認められた自然と野生動植物の宝庫、釧路根室地域の海道を進むルートです。

ルート内には釧路湿原、厚岸湖・別寒辺牛湿原、霧多布湿原、風蓮湖・春国岱、野付半島・野付湾といった5つのラムサール条約登録湿地があり、令和3年3月には「厚岸霧多布昆布森国定公園」が誕生するなど、国内においても他に類のない特有の自然環境が評価されています。

また、鮭を代表とする豊富な海産物と冷涼な気候、根釧台地が生み出す乳製品は国内外の美食家をうならせる逸品であるとともに、それらはアイヌ文化と結びつき、独特な歴史、文化、産業の形成を育んだ特異性をも作り出しています。そのストーリーは令和2年6月に「『鮭の聖地』の物語」として、日本遺産に認定されたことによりさらに評価が高まっています。



ルート図（大鷲の羽ばたく姿が見えますが）

2 活動理念と目指す姿

私たちは当ルートで活動をしていくにあたり、次の理念を定めています。

＜当ルートはシーニックバイウェイの活動を通して、当地が有する世界レベルの自然、美食、産業や歴史・文化などを守り育てながら持続可能な利活用を行

い、地域の活性化に貢献します＞

これまでは前述した豊富な資源がありながらも、地理的な理由から海道沿いの1市7町がまとまってPRすることもなく、またそれゆえに縦断する組織体制はありませんでした。このことは観光面で地域おこしをしている人々にとって、長く手を付けていない課題でもあり、それを解決すべく、コロナ禍以前の外国人観光客を呼び込もうとする国内機運の高まりを受けて、各町の地域おこし団体が呼びかけ人となって、当団体は結成されました。この地域の一体感を育み、持続させることがこの団体の目指す姿でもあります。

今はコロナ禍収束後に向けてサステナブルな地域資源の活用を目指し、次の活動に取り組んでいます。

・ 地域資源や環境の維持・保全

手つかずの自然や景観、野生動植物、一万年前から歴史や文化、近代遺産など、多様な地域特有の資源があります。これらを持続的に観光に活用するため、活動として、維持・保全を図ります。

・ 地域連携と情報発信

多様な地域資源があるにもかかわらず、世界遺産知床など、一部の地域資源の知名度が高いのみで、知られていない資源が多いのが現状です。そのため人、地域がつながり、シーニックバイウェイルート全体の知名度向上を目指しながら、インバウンド対応のHPやSNS等を活用して地域の活動や魅力等を発信する体制強化を図ります。



ホームページ

・ 地域資源の磨き上げ

地域資源の掘り起こしをするとともに、複数の資源や体験（アクティビティ）の連携等、観光コンテンツとして磨き上げ、国内はもとより、世界中の旅行者が満足し、何度も繰り返し訪れていただけるような「質の向上」を図り、魅力ある観光空間を創出します。

3 助成事業による活動とその成果

前述した活動理念と目指す姿から、次の事業について助成金をいただき展開しました。

① 地域の魅力を高めるロゴマークを活用した土産品の開発

高いデザイン性を求める「観光消費額の高い特定の個人旅行者」をターゲットとした、シーニックバイウエイのロゴマーク入りエコバッグ、ポストカード、ドリンクボトルを制作し、令和2年8月7日から9月30日の期間「ジモトナタビ」応援キャンペーンの一環として配布し、アンケート調査も兼ね797名の観光客から商品化についての意見を伺いました。

その結果としてエコバッグは商品価値が高いこと、3回以上当地を訪れているコアなファン層が6割程いることなどが分かり、今後は販売先のロゴの種類を限定するなど、地域内回遊を促す方法で道の駅やシーニックカフェで販売する予定です。



携帯にも便利なエコバッグ



ロゴマークデザイン
菊地笑美子氏（根室市川口）

デザインコンセプトは、1市7町の地図のシルエットをベースに、道東観光の魅力の1つであるオオワシをシンボルとし、「道をめぐる」というイメージを一筆書きで表現したものです。また、ラインというシンプルなモチーフを使うことでスタイリッシュ感を出しました。オオワシの羽の模様部分は、知床ねむろ・シーニックバイウエイの最大の魅力であるフットパスを靴のシルエットで表現し、さらにその形は風蓮湖、厚岸湖をも連想させるものです。オオワシの下には、湿地の地図記号を用いて湿原・海などの水を表現し、そこに反射する道東の美しい光も表現しました。

② ルート内資源を活用したツアーイベントの開催



フットパスツアーのリーフレット

根室交通トラベルサービス旅行企画として「旧標津線を巡る秋のフットパスツアー」を開催。地元ガイドの説明を受けながら、地域に隠れている第二次世界大戦時の掩体壕の跡や100年を迎える旧奥行白駒通所などを見学、開拓の歴史や交通網の変遷などを詳

しく解説することで、知的満足度の高いツアーとすることができました。

令和3年度はツアー参加者からの評価を参考に行程を改善し、ツアーを造成する予定でしたが、コロナ禍により断念しました。



廃線跡の鉄橋を渡る参加者

③ 草刈り体験イベントを模索したフットパスの整備

高齢化により維持・整備が困難になりつつある構成団体のフットパスコースを、当シーニックバイウエイの構成団体全体で協力しながら草刈りなどの整備作業を実施し、それをイベント化することにより今後のコース維持が可能かの検証を行いました。

この事業により新たな町内のボランティア組織と連携することができたことや地元農業者の協力を得てトラクターを活用できたことなどから、高齢化による活動停滞から一歩抜け出し、令和3年度からの活動に弾みがついています。また、この経験をもとに令和4年度からは、地域資源の維持、掘り起こしを目的とした自然と調和したライフスタイルを目指す人向けのフットパス整備イベントとして、コースの維持・整備ができるように実施していきたいと思っています。



旧JR標津線跡の草刈り作業

4 本ルート指定を目指して

令和2年、3年とコロナ禍での活動でしたがコロナが下火になったときを見計らって、無事、予定していた事業を終わらすことができました。

今年度ははいよいよ本ルート指定に向け活動計画書を提出します。また、新たに2次交通としてのサイクリングに取り組みます。当シーニックバイウエイの各構成団体が既に行っているものや、模索しているサイクリングのアクティビティのPRはもちろんのこと、ハードルは高いかもしれませんが、路線バス、鉄道とも連携したサイクリングルートの構築も目指します。